

1、評価項目の達成および取組状況

幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園 H28. 3. 22  
学校評価の取り組み報告 ~ダイジェスト版~

① 今年度の取り組み状況 (H27. 夏 1 回目実施)

☆保育の在り方・幼児への対応☆

「禁止語を使ってしまうのはどんな場面か？」ということ話し合う中で子どもたちが廊下を走っている場面が多いということに気がつき、そのため改善策をたてました。

☆保育の在り方・3 歳未満児への対応☆

「禁止語を使って場面はどんな場面か？」を話し合いました。「危険な場面では禁止語は必要である」という共通理解をしてから、禁止語を使うことの多い場面についての改善策をたてました。

実践したこと・・・

「あるくんじゃー」のキャラクターを作り、始業式などで廊下を歩くことの大切さを伝えました。また、廊下を思い切り走っていい時間を作るということで、「ランニングタイム」を設定しました。



実践したこと・・・

- ① トイレの場面
  - ・「トイレの使い方」についてクラスで見本を見せる(1 歳児)
  - ・「トイレの使い方」をクラスで共通理解する(2 歳児)
- ② 食事の場面
  - ・お代わりした子が選んでいるときは給食を下げる(1 歳児)
  - ・落ちたものは職員が拾い、抱き食べを防ぐ。(2 歳児)
- ③ 保育者に関わること
  - 「環境設定」
  - ・姉妹園のわかば保育園を見に行く
  - ・クラス内でも活動によっては月齢ごとに分ける
  - ・主任がリーダーをし、保育の展開や施設にあるおもちゃの使い方を知る。

② 今年度の取り組み状況 (H28. 冬 2 回目実施)

夏の自己点検・自己評価を受け2回目は再び「保育の在り方・幼児への対応」「保育の在り方、3 歳未満児への対応」の項目について自己点検・自己評価を行いました。3 歳以上児については、公開保育への取り組みもあり、評価が全体的に良くなりました。そのため、2 月のグループディスカッションでは「保育を深めるための連携について」「保育者の連携～担任・副担任・パート職員が共通理解しなければならない事項」をテーマに話し合うことにしました。



③ 来年度に向けて

☆保育の在り方・幼児への対応☆  
保育を深めるための連携

- ・チェック表のような用紙を作り、各クラスの進捗にはさむ。
- 他クラスの子どもの様子で担任たちに伝えたいと思う内容を誰でも記入できるようにする。
- ・チェック表の下の部分を記入して活用する。



④ 学校評価委員の方からのご意見

・公開保育では他園の方からも「先進的な取り組み」と評価されていて良かった。  
・さくらぐみのアプローチカリキュラムについては小学校としてもありがたい取り組みであると感じている。  
・自己点検・自己評価では、3 歳以上・3 歳未満児ともに「職員が自信を持って行っている」という記述があり、素晴らしいことだと思う。

・園全体でこどもにとってより良い環境を考えて下さって親としては本当にありがたく感謝している。  
・保育参観でばら組の発表を見せてもらった際、こどもたちが「楽しかった」と言っていた。保護者としてこどもたちが「楽しい」と思える環境を用意して下さいたいことをありがたく思う。

・(保育参観を見て)ばら組からこのような経験を積み重ねているという事で、就学時には他園と比べて大きな差になるだろうと感じた。  
・自己点検・自己評価で自分たちが考えて改善するという力が育っているため、公開保育でもその成果が見られた。公開保育に参加させて頂き、学ぶことが多かった。  
・園が50周年を迎えた。職員、地域の方々から支えられてきたことをこれからも大切にしていきたい。



☆保育の在り方・3 歳未満児への対応☆  
保育者の連携  
～担任・副担任・パート職員が共通理解しなければならない事項

- ・保育者の役割の明確化  
担任・副担任(正職員・パート職員)・保育補助の役割分担を整理した。
- ①担任⇄副担任⇄パート職員と情報が相互に回るようにする
- ②午睡時子どもたちが寝ついたら、10 分程度情報共有をする
- ③進捗の活用(担任から副担任へ・副担任から担任への報告を作る)